

保護者様

「歯列・咬合の不正」に関して受診される前に




～「歯科検診結果のお知らせ」にて「ウ 歯列・咬合」の項目に○がついていたお子さまについて～

歯列・咬合とは、歯並びやかみ合わせのことです。「食べ物を取り込み、食べる」機能、「表情をつくり、話す」機能及び「運動を支え、体のバランスをとる」機能等に直接かかわっており、食生活のみでなく生活の質全体に関係しております。歯列・咬合の不正は、子供の成長発育段階により、嚙む・話す・呼吸する・体のバランスをとるなどの発達に影響が見られる場合があります、学校での学習にも影響がでる場合があります。

学校歯科健康診断の結果に記載される歯列・咬合の不正は、主に「反対咬合」「上顎前突」「歯数異常」「開咬」などがあります。これらの症状については、お子様の発達段階や個々の症状の程度により、必要となる対応が異なります。また、学校健診は、疾病等の早期発見を目的とするスクリーニング検査であり、医療機関を受診されるかどうかは各ご家庭の判断となります。また、受診にかかる費用は保護者様の自己負担になります。

一般に、矯正歯科治療が必要である場合、「厚生労働大臣が定める疾患」以外は、自費診療となり、健康保険が適用できません（「子ども医療」等医療費助成制度も適用外）。つまり、治療費全額が保護者様の負担となり、その治療費が高額となる場合も少なくありません。また、治療期間が、長期間に及ぶ場合もあります。

なお、下記の内容もご確認いただき、お子さんの状況を確認されたい場合は、受診前に、学校までその内容をご相談ください。必要に応じて学校園歯科医より回答いたします。

名称	イメージ画像	歯列・咬合の状態	歯列・咬合の不正による影響
反対咬合		上下の前歯のかみ合わせが前後逆になっている状態	発育の状況により、歯周病やむし歯のみでなく、嚙下（飲み込み）の時に舌を突き出す癖や口呼吸に関連することもあります。
上顎前突		上の前歯が前方に出ている状態	成長発育不全（上顎発育不全・下顎発育不全）を起こしやすくなります。 発育の状況により、歯周病やむし歯のみでなく、嚙下（飲み込み）の時に舌を突き出す癖や口呼吸に関連することもあります。
歯数異常		本来生えてくるべき歯数と異なる状態	先天性欠損や埋伏歯、過剰歯がある場合が多く、手術による治療が必要な場合、その後に矯正処置が必要な場合もあります。
開咬		かみ合わせたときに前歯に上下の隙間ができている状態	発音（構音）に問題がおき、サ行やタ行が発音しにくいなどの障害が起こる場合があります。 原因が指しゃぶりなどの癖の場合、癖の中止や早い時点でくちびるの訓練を行うことにより、改善がみられる場合があります。重度の場合は、将来的に矯正治療の検討も必要です。